

市民が取り組む武庫川の特定外来種オオキンケイギクの駆除活動

山本義和・白神理平・上田 宏・小川嘉憲（武庫川流域圏ネットワーク）

はじめに

武庫川流域圏ネットワークは、武庫川に関する各種情報の共有と発信を行い、武庫川の安全と自然環境保全を目的として2011年に設立された市民環境団体で、15の団体会員と104名の個人会員で構成されている。今回は、市民参加を求めて、武庫川および仁川の河川敷で行っている特定外来種オオキンケイギクの駆除活動について報告する。

オオキンケイギク

北アメリカ原産のキク科の多年草で、5～7月にコスモスに似た直径が5～7cmの黄色の美しい花を長い茎の先端に咲かせる。葉は細長いへら状をしており、葉の両面には荒い毛が生えている。高さは30～70cmになる。根は強靱でよく生育することから、かつては道路工事の際の法面強化や緑化に使用されたり、鑑賞用として苗が販売されたりしていた。しかし、いったん定着すると在来の野草の生育場所を奪い、生態系を大きく変えてしまうために、2006年に特定外来生物に指定されている。外来生物法で指定されている部位は根と種子である。生きたままでの運搬、栽培、譲渡が禁止されており、違反すると懲役3カ月、罰金300万円の厳しい罰則がある。



オオキンケイギクの花、開花後に種子をつける



オオキンケイギクの強靱な根

駆除活動

環境省は2015年1月に外来生物法を運用レベルで変更した。すなわち、①最終処分はゴミ焼却場、②運搬中の飛散防止、③公表して実施、の3条件を満たすと、市民活動としてオオキンケイギクの駆除活動に取り組むことが可能になった。この措置は、大いに評価すべきことである。

武庫川流域圏ネットワークでは、市民に皆さんに参加協力を求めて、オオキンケイギクの駆除活動を2015年3月8日に武庫川の支流である仁川の下流部の河川敷で行った。この日は、130名の参加者が得られ、オオキンケイギクの小株3,100を根元から抜き取り、密封・運搬して焼却処分した。

オオキンケイギクの駆除は、オオキンケイギクの群落がみられる①仁川駅近くの仁川河川敷の両岸300m、②仁川下流部の左岸200m、③武庫川本川右岸の河川敷堤防で、現在まで定期的に行っている。オオキンケイギクの駆除を開花期に行う



と、「きれいな花を何故摘み取るのですか？」と質問を受けることが多い。「生態系への悪影響を防ぐ。生物多様性を守る。」と説明しても、すぐには理解が得られないことが多く、啓発活動の重要性を肌で感じている。

オオキンケイギクの駆除活動には、宝塚中学校の科学部生徒、学校や大学の先生、企業の方、兵庫県や流域市の行政関係者、家族連れ、市民環境団体、など多様な人々に参加いただいている。駆除の方法として、根元からの抜き取り、地上部の刈り取り、開花期に花を摘み取る種子の拡散防止などが現実的なこととして考えられる。地上部の刈り取りは、行政が定期的に行う草刈りであるが、これはある程度の効果があることは間違いないが、作業中に種子を拡散させることにつながる。花を摘み取る作業は、簡単な方法であり、廃棄する植物量も少ないというメリットもあるが、その直後から脇芽を出して再び花を咲かせるので、あまり効果的な方法とは思えない。オオキンケイギクの根は強靱なので、大きくなった株を抜き取るには労力を必要とし、廃棄する植物量が多くなるという問題点があるが、一番効果のある方法と思われる。なお、私共のオオキンケイギクの駆除会にはパッカー車を出動させて、ゴミ焼却場まで運搬いただいている企業があり、そのボランティア活動（CSR：企業の社会的責任）には大いに感謝している。



私共のオオキンケイギクの駆除の効果はどの程度あるのか、定量的な検討は出来ていない。以前はオオキンケイギクの群落があった約200mの区間で、数名の方がオオキンケイギクの駆除をしておられ、ここには一株も見られないところもある。オオキンケイギクの駆除を行った現場での変化としては、要注意の外来生物に指定されているヘラオオバコの繁殖が目立っている。植生管理の難しさを感じられる。喜ばしいこととしては、オオキンケイギクの駆除を行っている場において、武庫川の希少種カワラサイコ（兵庫県RDBでCランク）がみられるようになってきたことが挙げられる。宝塚市自然保護協会の調査では、この場はカワラサイコの群落であったが、オオキンケイギクの繁殖によって消失したとされている。

一般的に考えると、外来植物が国内に侵入してきた場合に、どの時期にどのような対策を打てば、その効果はどの程度なのかは左図が示した通りである。オオキンケイギクは明治中期に国内に侵入したと言われている。戦後の高速道路建設などで道路法面強化の目的で、強靱な根を張り、美しい花を咲かせるオオキンケイギクが多く利用され、国内に分布を広げたとされている。また、園芸用にも市販されてきたことから、その強い繁殖力で、更に国内にひろがり、2006年には特定外来種に指定されるまでになってしまった。現在では、根絶可能段階を越えて、繁殖制御段階を駆け上っていると思われる。武庫川流域圏ネットワークは、今後も市民と行政が協働してオオキンケイギクの駆除に取り組みたい。

外来植物の侵入段階と対策の有効性

